



# めぐせ なわとび名人

from 志水小学校

志水小学校では、毎年十二月頃から「なわとび運動」に取り組んでいます。そこで、今年度は十一月三十日に、四年生から六年生を対象とした「なわとび教室」を行いました。講師としてお招きしたのは、世界が認めたプロのパフォーマーである粕尾将一さん、通称「縄のまっちゃん」です。縄跳び競技全日本チャンピオン、アジアチャンピオンに輝いた実績をもち、サカイス集団「シルク・ド・ソレイユ」に在籍し世界で活躍している方です。

当日は、全校で十五分間のデモンストレーションを見せていただきました。音楽に合わせて、手軽に縄を跳ぶ姿は圧巻で、みんな息をのみ目は釘づけ。二重跳び、三重跳び、四重跳び、五重跳びまで見せていただきましたが、縄の回る様子は全く見えません。音の違いに意識を集中して、回数が増えていくのを感じました。そんな「まっちゃん」ですが、小学五年生のときは二重跳びができませんでした。それが悔しくて練習を重ねた結果、今の自分があるのだとお話をさせていただきました。「まっちゃん」の生き方に触れ、刺激を受けた児童も多くいました。



「なる」という「まっちゃん」の言葉にみんな必死に跳びました。また、縄の長さも大切であることも教えていただきました。「まっちゃん」の回す縄は、頭すれすれでした。最後に、五分間の個人練習を行ったあと、「今まで跳べなかった技ができるようになった人？」と問いかけられました。かなりの児童が拳押し、初めて二重跳びができた、あや跳びができたことに、笑顔があふれていました。短時間でも、この集中力を毎日継続することが大きなことを成し遂げることにつながる、と締めくくられました。

今、児童は、学年に合わせた「なわとびカード」をもって、体育の授業や放課等を使って練習に励んでいます。二期の終業式には、十四名の児童が体育委員から「なわとび名人」の賞状をもらいました。

# 私の航空史

岡野允俊

## 二・二六事件

昭和十一年二月二十六日、日本国中を震わせた事件が起きた。二・二六事件である。今年はいれから八十三年目に当たる。二・二六事件と聞いて「ああ、そうだったか」という世代は少なくなり、「ナニ、ソレ？」という世代になってきた。数年前の二月二十六日付けの新聞を調べてみたがニュースや論説の記事は無く、「暮らしの作文」として九十歳の婦人が当時の思い出を書いていた。(当時名古屋の松坂屋に勤めており、この日、広小路通りに銃剣を手にした兵士が並び、異様な雰囲気であった。新聞もラジオも何も伝えず、市電もバスも不通。連隊の前には大砲も並べてあり不安になった。開店したのはものの店の前にも武装した兵隊が並んでおりお客は入らない。昼ころになってやっと事の真相が分かり兵隊も引き揚げていった)という文であった。

二・二六事件は農民の惨状に対する政府への反感、軍上層部への反動がからみ血気にはやる青年将校が指揮する

軍人のクーデターであった。斎藤内大臣、高橋は清蔵相、渡辺錠太郎教育総監らが殺害された。東京市内には戒厳令が敷かれ、ラジオでは「兵二告グ」を放送した。「今カラデモ遅クハナイカラ原隊ニ帰シ、抵抗スルモノハ全部逆賊デアルカラ射殺スル。才前タチノ父母兄弟ハ国賊トナルノデ皆ナイテイルゾ」という文を放送し、また市街地上空には「勅令下ル、軍旗ニ手向カウナ」というアドバルーンが掲げられたので下士官、兵はほとんど原隊に復帰し、この反乱は四日目に鎮圧された。首謀者七十六名が有罪、うち十七名が銃殺刑、その他は禁固刑に処せられた。先の五・一五事件で政党政治が終りを告げ、この二・二六事件で軍部の政治介入が決定的になり、以降日本はどんどん右傾化していった。

この時の教育総監渡辺錠太郎は拳銃で応戦したが全身に銃創と刀傷を受けて殺害された。渡辺大將は明治七年小牧に生まれ、陸軍士官学校、大学を経て日露戦争に大本營参謀として従軍し、山県有朋元帥の副官を務め陸軍大將になった秀才であった。事件後神社に胸像が建てられたが、終戦時に取り壊され、一時行方不明になっていたところ、その後小牧の菩提寺(西林寺)に返還された。